

「企業経営における労務管理の論点整理

～社労士業務における経営労務アプローチの体系化～

主任研究員 愛知東邦大学経営学部教授 田村 豊
研究員 東京都社会保険労務士会 山崎 憲昭

1. 研究企画のねらい

中国市場の急速な成長、国内事業の再編など、今日、日本企業の経営環境は急速な変化に直面しています。なかでも社会保険労務士の多くが携わる、中小企業の経営は、大手企業の動向との関係で、今後多様な経営展開が予想されます。

変化する経営環境の下においても、企業経営をどのように展開させ、安定的かつ継続的成長を遂げるか。企業成長は多くの企業経営にとって共通の課題であり、企業経営者との対話を進め、社会的にも高い信頼性を得るためには、企業経営についての広い知識と見識の涵養がいっそう求められています。

そこで本研究では、今後の経営環境の変化を想定し、社会保険労務士の視点から、人事領域をどのように位置づけ、企業経営戦略に結びつけるか。社会保険労務士業務、職域展開との関係からも、どのように企業経営をサポートがもともとめられているのかなど、社会保険労務士の視点に配慮して、企業経営、労務管理の領域を整理し、体系化することを目的としていきます。

2. 研究の特徴

本研究の課題の特徴は、企業経営、労務管理分野での基礎理解を高めるハンドブックを企画、編成することです。そのため本研究では、社会保険労務士を主たる対象として、企業経営の理解と企業経営へのアドバイス、指導を行うための経営管理、経営組織論などを盛り込んだハンドブックを出版するために、企画・編集を行います。

そのために、研究プロジェクトでは、人材領域と企業経営との関係の整理などの理論的視点、経営コンサルタント活動の充実などでの実践的視点、社会保険労務士の社会的責任などの社会的視点、以上の3つの視点から人事、労務領域を整理し、経営と人事との関係を理解できる内容となるハンドブックを企画化することを想定します。

とりわけ社会保険労務士が主要な顧問先となっている中小企業にとって、人材管理、人材育成、人材の戦力化は経営資源での位置づけからみても、重要な課題となっています。もちろん、人材管理を行うには、今日コンプライアンスの視点は欠かせず、こうした法的視点も入れた人事・労務のテキストが求められます。本研究では、企業経営領域と法的領域にも配慮した編成を心がけていきます。

入門的、また理解しやすいテキストであることを念頭におけば、理解の向上をはかるためにも、教材内容の編成だけでなく、理解のプロセスにも充分配慮する必要があります。企業経営の基本項目を精査し、理解しやすく、かつ内容面でも評価されるテキストとなることが望まれます。

3. 期待される研究の成果

本研究にとって、もっとも重要な課題は、社会保険労務士向けのテキストの企画・編集であり、それは今後の社会保険労務士業務の発展方向とも重なっていく必要があります。

社労士業務の今後の発展方向を念頭におくならば、現在の企業経営への理解にとって重要な課題となっている経営環境の捉え方、企業活動の基本的理解の道筋など、企業経営の基本理解をていねいに解説することが求められます。

以上の企業経営への基本的理解を充実させると同時に、本研究では、企業経営の全体像を理解することにも力を入れ、企画を試みる必要があります。

そこで、人的資源管理領域、コンプライアンス領域とのバランスを計るためにも、先に出版した『経営労務監査の手法』なども理論的にいっそう整理しつつ、企画の土台として利用し、これまでの理論蓄積、理論的習得にムダが無いよう配慮し、理論整理を進めていきたいと考えています。